

## 「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】

1. 都道府県、市町村 熊本県<sup>おぐにまち</sup>小国町
2. 事業者名 (財)学びやの里
3. 取組みの名称 小国流ツーリズムの展開
4. 取組概要等

### 概要

小国町は、昭和62年新しい地域づくり構想「悠木の里づくり」を策定し、この構想の中で、医学者北里柴三郎博士の出身地 大字北里地区を、北里博士の意思（学習と交流の精神）を継いで、「学びやの里」と位置付け、各種施設の整備や、様々な交流事業や文化活動、地域振興の取組を展開してきた。

こうした活動をさらに広げていくために、平成8年に町民の寄付金などを基金として、「財団法人学びやの里」が設立され、以下のような事業を展開している。

#### 九州ツーリズム大学の開講

平成8年12月、「学びやの里」の中心施設である「木魂館」でシンポジウムが開催された際に、「実際にグリーン・ツーリズムに興味があってもノウハウや実践を学ぶ場がない」ということが課題としてあがったことを受けて、平成9年9月に(財)学びやの里が事務局となり、全国初のツーリズム大学「九州ツーリズム大学」を立ち上げ、グリーン・ツーリズムを実践する担い手の育成、ツーリズム関係情報の受発信、ネットワークづくり等が行われている。

#### おぐに自然学校

子どもたちが体験を通して人と自然の関係や自然の大切さを実感できる場所として、平成12年に「おぐに自然学校」を開校した。木魂館を拠点に、町内の至るところを教室にしたこの学校は、毎年10回以上開催され、毎回町内外から多くの子どもたちの参加を受け入れている。

#### 農業体験受入

都市部の学校での「生徒たちに農林業を体験させたい」とのニーズの高まりを受けて、平成17年度から北九州方面の中学校の農業体験受入を始めた。町内のおよそ90件の農家の協力の下、2泊3日で一戸あたり3～4人の生徒を受け入れ、農家の暮らし体験を実施している。

そのほか、木魂館内施設を利用した町内外の多くの人たちと協働での文化的イベントの開催や、町外の多彩な人達との交流の結果、Iターンによる移住者もみられる。

### 活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
施設利用者	52,334	51,004	44,136	38,578	38,402
解説	単位：人 会議室・宿泊施設・グランド等利用者数				
施設利用者	55,028	51,492	50,566	50,651	36,044
解説	単位：人 レストラン・温泉施設等利用者数				
イベント参加者	197	175	177	184	308
解説	単位：人 九州ツーリズム大学受講者数				
イベント参加者	488	466	511	385	386
解説	単位：人 おぐに自然学校参加者数				

### 活用している地域資源

九州ツーリズム大学開講時には、大学教授などの地域づくりの専門家を講師として招いているが、座学と同時に地元の人材を活かした実践的なプログラムも行っている。

ツーリズム大学や自然学校のフィールドとして、国鉄宮原線の跡地や、町東部に広がる採草放牧地、小国杉林など、多彩な地域資源とそれらを維持してきている人々から協力を受け活用している。

また、(財)学びやの里の運営するレストラン「北里バラン」では、小国黒豚をはじめ地元食材にこだわったメニューづくりに努めている。

### 地域活性化のポイント

小国のような小さな町が、経済的な活力はもとより、社会的、文化的な活力を維持していくためには、町に出入りする「交流人口」を増やすことが必要と考えており、(財)学びやの里は、様々な交流活動を行い、地域の中にそういった交流活動が生まれる仕掛けを行ってきた。

その結果、これまで、九州ツーリズム大学では200名以上の卒業生、延べ1,000人以上の聴講生が学び、農業体験の受入では、平成17年は2校370名、平成18年は3校470名を受け入れた。平成19年は、すでに1,000名を越える申し込みがあるなど、活発な交流活動が行われている。

今後、特に重要となるのは、小国に新しいビジネスを起こし、発展させる原動力となる専門的な技能と知識を持った人材との交流であり、ツーリズム大学等の活動の中で、各方面の優れた人材を惹きつけながら、交流ビジネスの振興と発展を図っていく。

また、交流人口がイターンを始めとする定住人口の増加につながることも期待される。

これらの交流活動の中に収益を上げるビジネスを創り出す必要があり、住民が交流活動のどこに、ビジネスチャンスがあるかを鋭く見つけ出す企業センスを磨くことが大切である。

### 事業の今後の展開方向

都市と農村、両者が抱える問題とニーズを効果的に解決していくことが今後の課題である。農村では拡大する遊休農地や過疎化による人口減により地域全体が疲弊し農村自体が現状を維持していくことが困難となっている。一方で都市住民は田舎暮らし志向、エコロジカル志向などの流行に乗り農村への関心を高めている。こういった社会動向の中で、さらに拡大する都市農村間のこれらの問題とニーズを満たすため、以下2つの事業展開を計画している。

#### 1. 持続可能な農村地域開発のための人材育成事業

都市と農村の多面的な学習交流による持続可能な農村地域開発の手法を、農、食、山、住、エネルギー、ライフスタイル等、幅広いテーマで設定し、それを新たな農村開発における人材育成の教育手法へと確立し、普及していく。

#### 2. 関東ツーリズム大学設立事業

さらにこの人材育成手法を活用しながら、1都10県、関東圏内における学習型ネットワーク組織を産官学NPO連携によって設立、運営していく予定である。すなわち、関東ツーリズム大学の設立である。これによって、さらに幅広いエリア、幅広い分野における都市農村間の課題、ニーズに対応可能な事業体制を構築させる計画である。

